

養珠院お万の方

養珠院お万の方は徳川家康の側室で、徳川頼宣（紀州徳川家初代藩主）・徳川頼房（水戸徳川家初代藩主）の生母です。つまり水戸光圀の祖母、徳川吉宗の曾祖母にあたります。

家康の周りには何人かの「お万様」がいるため、一般的に落飾の後に名乗った戒名を使い「養珠院お万の方」といいます。

徳川の歴史ではお万の方を「背丈高くして、器量よく、博学多識にして実に優れたる大賢婦なり」とありますが、まさに才色兼備を地でいくような方でした。出生に関しては諸説ありますが、安房の国、現在の千葉県勝浦市に生誕の碑があり、歴史との整合性を考えるとこの説が有力です。

父は勝浦城主正木頼忠、母は北条氏隆の娘（後の智光院）で、豊臣秀吉の北条攻めに際し、養父、蔭山長門守氏広により伊豆河津の母方の北条屋敷に居を移しました。お万の方は河津で十二才頃からの数年間を過ごしましたが、小田原城落城を受け、一家は縁者をたよって伊豆市加殿の妙国寺に蟄居します。

家康との出会いに關しても諸説あるようですが、共通しているのは家康が三島を通過した際に見初められ、江戸城に上がったと言われています。

十年ほどの後、お万の方は子宝の湯として有名なここ吉奈温泉に子宝祈願のため逗留しました。当館にはお万の方が入浴後に涼まれた腰掛け石が玄關棟庭園に残っています。

慶長七年（一六〇二年）三月に家康の第十子長福丸（後の頼宣）を、さらに翌年の八月に第十一子鶴千代（後の頼房）を授かり、徳川家繁栄の礎を築きました。

家康は一六〇五年、徳川秀忠に將軍職を譲ると江戸から離れ、自らは大御所となり現在の静岡県静岡市にあった駿府城に隠居し、二元政治体制をとりました。このとき駿府城は天下普請によって大改修されましたが、石垣や堀が現在でも往時の姿を残しているのみで天守閣、門などは現存していません。ただ、その城内にあったお万の方の居間は、移築されて妙法華寺奥書院（静岡県三島市玉沢）として現存しています。

妙法華寺はもともと鎌倉に創建されましたが何回かの移転のあと、日蓮宗を信仰していたお万の方の尽力により現在の三島市に移転されました。これが駿府城の唯一の遺構です。

一六一六年に駿府城で家康が没するまでの大御所政治時代、駿府は江戸と並ぶ政治・経済の中心地として大いに繁栄しました。その駿府城（別名「府中城」）の東にあるところから、当館は「東府屋」と名付けられました。いわれています。

波瀾万丈の運命をたどったお万の方ですが、不思議なことに苦難の後には必ず幸運が訪れます。

お万の方のような幸運が当館にお越しの皆様にも訪れることをお祈りいたします。

参考文献「女心仏心」

養珠院お万の生涯

戸田七郎著

